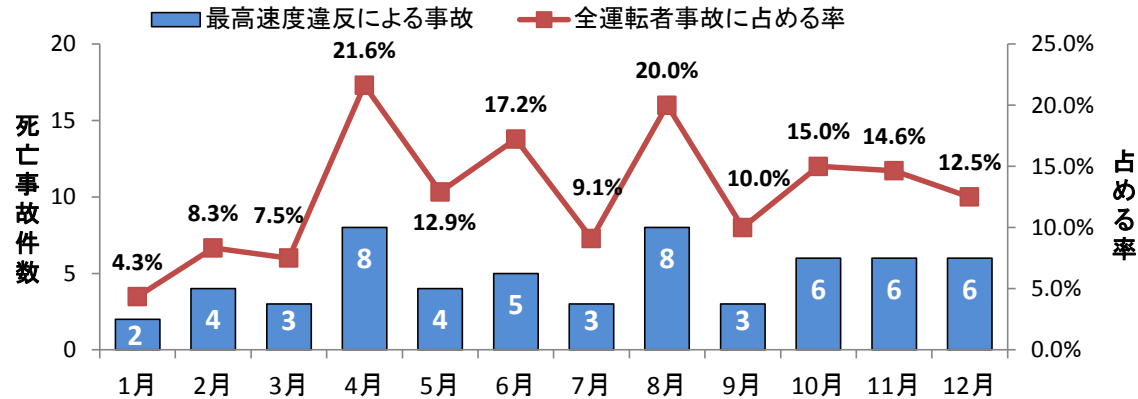


危険認知速度分析・スピードの出し過ぎは重大事故に！！

～ 過去5年間(H24～H28)のデータから ～

1 月別発生状況



過去5年間の死亡事故データから月別に『最高速度違反による事故』をみると、4月、8月が8件と年間で最も多く、続いて10月、11月、12月が6件と多い月である。

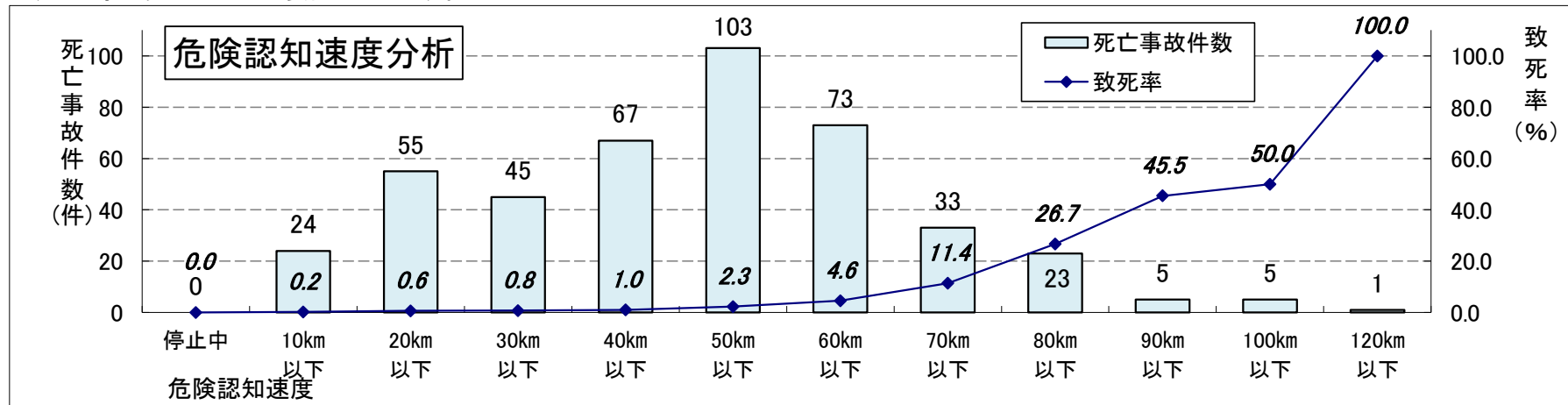
特に、4月・8月は最高速度違反が全運転者事故に占める割合が2割以上と高く、年間平均(12.5%)を4月は9.1ポイント、8月は7.5ポイントも上回っている。この時期は行楽シーズンということもあってか、レジャーやドライブでの事故が目立つ。

また、4月は若年運転者による事故が目立ち、8月は夜間での事故が目立つ。

2 危険認知速度別致死率

スピードを出すとどのくらい危険なのか、どのくらい死亡事故につながるのか、過去5年間の死亡事故(高速道路での事故を除く)で「危険認知速度」から、速度別の致死率をみると、下記のグラフになります。

40km/hまでは致死率は1%以下であるが、速度が上がるほど致死率が高くなり、50km/hを超過したところから急激に上昇しており、80km/hを超えると44.5%、90km/hを超えると50.0%と致死率が高くなり、これは2件に1件が死亡事故になることを示しており、当然ながら速度が出るほど事故時のダメージは大きく、死亡事故発生の大きな要因といえます。



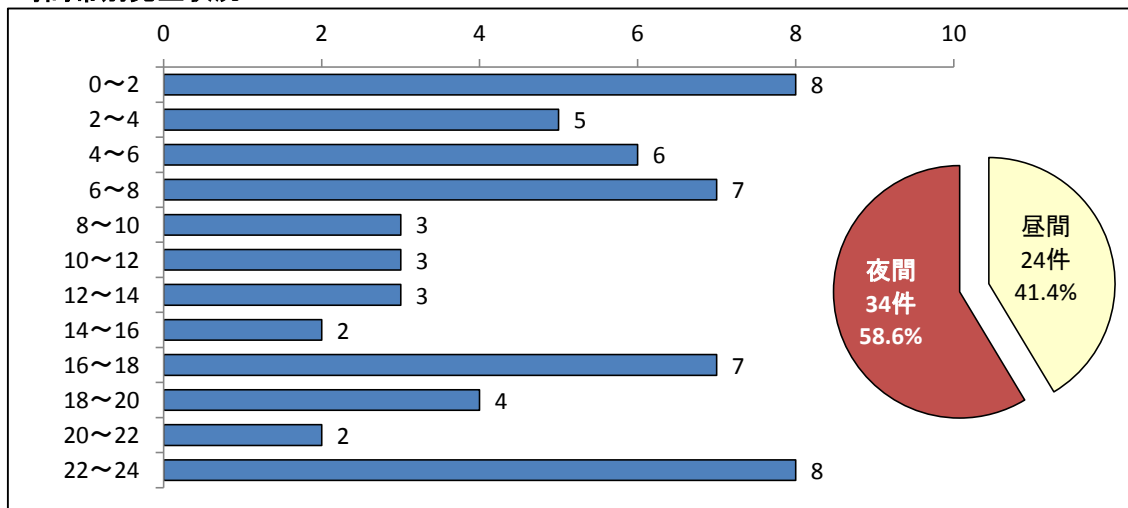
注1:「危険認知速度」とは、事故当事者が相手方車両・人等を認め、危険を認知した時点の速度、例えばブレーキ・ハンドル操作等の事故回避行動をとる直前の速度をいう。

注2:「致死率」とは、人身交通事故100件当たり、どの位の割合で死亡事故になるのかを示したものをいう。

3 最高速度違反による死亡事故発生状況

- (1) 時間帯別に見ると速度超過による死亡事故は、夜間での発生率が高く、特に、22時から2時の発生が目立つ。
 (2) 路線別に見ると、国道、高速道路等、主要地方道といった幹線道路で多く、高速道路等では昼間の発生が多く、特に午前中の発生が目立ち、それ以外では夜間の発生が目立つ。
 (3) 事故類型別に見ると、単独事故が最も多く、また、対歩行者事故が夜間に目立つ。
 (4) 道路線形別に見ると、カーブ・直線での事故がほぼ同じ割合で発生しているが、単独事故・正面衝突事故はカーブで目立つ。
 (5) 年齢層では若年(24歳以下)の運転者が目立ち、大半が男性運転者と目立つ。

(1) 時間帯別発生状況



(2) 路線別・時間帯別発生状況

	0～4時	4～8	8～12	12～16	16～20	20～24	昼間	夜間	合計	
高速道路等	3	5	3	1	1		8	5	13	
国 道	19号		1	1			1	1	2	
	21号		1			1		2	2	
	41号	1			1		1	2	3	
	156号		1				1		1	
	258号	1						1	1	
	その他	3		1	2	1	1	4	4	8
	小計	5	3	2	3	1	3	7	10	17
主要地方道	1	2		1	3	4	4	7	11	
一般県道	2	1	1		3	2	3	6	9	
市町村道	2	2			3	1	2	6	8	
合計	13	13	6	5	11	10	24	34	58	

(3) 事故類型別・昼夜別発生状況

	昼間	夜間	合計		
			発生数	構成率	
人対車両		9	9	15.5%	
車両相互	正面衝突	4	4	13.8%	
	追突	2	2	6.9%	
	その他	5	3	8	13.8%
	小計	11	9	20	34.5%
単独事故	13	16	29	50.0%	
合計	24	34	58	100.0%	
構成率	41.4%	58.6%	100.0%	...	

(4) 道路線形別・事故類型別発生状況

	カーブ	直線	合計	
			発生数	
人対車両		9	9	
車両相互	正面衝突	6	2	8
	追突	1	3	4
	その他	3	5	8
	小計	10	10	20
単独事故	18	11	29	
合計	28	30	58	
構成率	48.3%	51.7%	100.0%	

(5) 運転者年齢層別・男女別発生状況

	男性	女性	合計
若年運転者	19	1	20
高齢運転者	3	1	4
その他運転者	33	1	34
合計	55	3	58